

震度5強…家具でけがしないために

室内の防災対策は

震度5強を観測した15日の三重中部地震。天井の一部が崩落するなどの被害で、18人がけがをした。大地震はいつ起こるかわからない。家具倒壊などを逃れても、部屋の中にある家具が凶器に変わることもある。家の中の安全性を高めるため、手軽な身近な対策はないだろうか。

(宮沢崇志)

金具で固定、びくともせず

三重中部地震で最も大きい揺れを観測した三重県亀山市。若林重夫さん(71)は、自宅で食事中だった。

ゴーツという地鳴りがして、突き上げるような衝撃があった。机の上に置いたお椀から吸い物がこぼれた。妻は裸足のまま、家の外に逃げ出した。

震度5強は「重い家具が倒れることがある」「多くの墓石が倒れる」程度の揺れ。近所の工場ではガラスが割れ、機械が倒れた。しかし、若林さんの家では、2階の戸棚から人形が落ち

た程度。「家具転倒防止のおかげです」と話す。

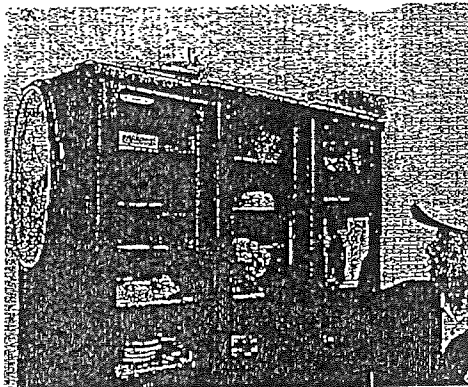
亀山市では4年前から高齢者家庭に焦点を置いて、家具転倒防止策を進める。申請のあった家庭に固定用金具を支給。取りつけは、地元の県産労働組合の組合員が無償で請け負う。

若林さん宅では、大きな家具は金具などで壁に固定されている。市の制度で5年に付けてもらった。「地震でもびくともしなかった。感謝しております」

同労組亀山支部の桜井繁

義執行委員長(63)は「固定するには、壁も家具もしっ

かりした場所にねじを刺す必要がある。固定しやすいのは柱の前に家具を置くことだが、窓の場所でも専門家である大工なら対応できます」と話す。昨年度までの3年で市内607世帯に取り付けた。地震が起きたので、今年度の申し込みは増えそうです。



若林さん宅の食器棚。上部と壁をワイヤでつなぎ転倒を防止する。手にしているのは、扉に取りつけた鎖＝三重県亀山市で